

なんもく 山村ぐらし通信

昨年2月の大雪には参りました。物や社会インフラに恵まれ、何不自由のない生活を送っている私たちが、自然の猛威のまえには無力であることを思い知らされました。

テレビや新聞では、連日、大雪で「孤立」「孤立」と騒がれ、救援のヘリコプターが飛び交う大変な状況の中、隣近所で助け合い「普段から保存食を作っているから大して困らなかったよ」というお年寄りがたくさん居たことを聞いて、お年寄りの皆さんの生きる知恵、底力に感動しました。『必要は、発明の母』と言いますが、だったら『不便は、知恵の泉』。買い物に行くのがたいへんならば、家のレンジイ焔で野菜を作り保存食にしておく。無ければ無いなりに、不便なら不便なりに知恵と技を使って何とかする。流通がストップしてスーパー

Cool nanmoku!

(クール・ナンモク!)

～子供を育てるなら南牧村!～

やコンビニに食料品が無くなったってビックともしない生き方が南牧にはあります! 地球規模の異常気象・日本列島近海の地殻変動も気になります。近い将来自然災害がますます増えるかもしれない。

世の中が益々グローバル化して、今は平和な日本も、他国の影響でどんな人災が降りかかってくるかもしれません。だから、これからは生きる子ども達には、『不便なことを幸せ』と感ずる『無いことを豊か』と思える、柔軟で多様な、底力のある生き方があることを知ってほしい。そして、災害や困難を乗り越えてたくましく生きていく力を体得してほしい。それにはまず、南牧のお年寄りの知恵を、技を、学ぶ事だろうと思うのです。「子育ての最終目標は自立。メシが食べる大人

に育てることである」とは、「花まる学習会」の高浜正伸氏の言葉ですが、氏は「乳幼児期は種まきの時期、その乳幼児期の豊かな体験が、小学校に上がってから後の伸びを支える」とも言っています。子どもにとって、まわりの人達とのふれあいや、豊かな自然体験が、五感を鍛え、感受性を豊かにし、自分で考え、生きる力を身につけていきます。

だとして、南牧には四季折々変化に富んだ豊かな自然があります。そこにはたくさんの生き物たちがいます。山には、男の子達の大好きな昆虫や女の子達の好きな花や木の実、草の実。川にはたくさんの魚たちがいます。南牧川は、深過ぎず冷た過ぎず、こども達のちよつとした冒険心も満たしながら水遊びできるすばらしい川です。子ども達にとって、人的環境・自然環境・経済的環境(保育料無料・学校給食費無料・医療費無料)にも恵まれた南牧村は「COOL!」でしょ! だから、「子どもを育てるなら・南牧村!」

協賛会・中泉京子

2015(平成27)年2月発行
通巻第12号版(冬季号)

発行責任者: 神戸 広
問合せ 南牧村役場
村づくり雇用推進課
電話 0274-87-2011(代表)

紙面編集: 協議会広報班
発行元: 南牧山村ぐらし
支援協議会



協議会HPQRコード

協議会HP
<http://www.nanmoku.ne.jp/~sanson/>
協議会活動ブログ
<http://nanmokusannonn.blogspot.jp/>

本島平村との 視察交流報告



役場2階「白鳥の間」にて

この協議会が村内にある空き家の利活用を目指して設立されて4年が過ぎました。まだまだ手探りの部分があるので、その活動を視察したいとの申し出があり、手本になるような部分があるのか疑問に思いながらも協議の上お受けする事になりました。1月18

日、訪れてくれたのは長野県本島平村糠千(ぬかせん)地区の有志17名。協議会の取り組みの説明後、移住してきたIさん宅を訪問。引き続き「なんもく暮らし体験民家」を見学。更に古民家民宿かじか倶楽部へ移動しての意見交換会となりました。糠千地区の方とお話しするなかで、地区には数件の空き家があり、今後その数の増加が予想されること。その心配を払拭する方法の一つに空き家の利活用を検討しているのだそうです。となると気になるのが空き家バンクに関する事や、集落と

移住された方と協議会の関わりなど、具体的な質問も飛び交い協議会にとっても有意義な交流になったと感じています。去年、創生会議の発表により日本の至る地域が似たような状況になっていることがはつきりし、地域によって抱えているものに多少の違いはありますが、いざ膝を付き合わせて話してみると視察に訪れた糠千の皆さんも同じ思いを抱えていることが分かりました。長い道のりではありますが協議会として知恵を出して手の届くところは何とかしたいものです。会長・金田

【人口減少を食い止める以上に、年代別人口比率の健全化を目指す。たとえこの村の人口が、現在の半分にまで減っていったとしても、子育て世代を含めた現役世代の人口比率を高め、バランスを健全値に近づける努力を続けることで村としての存続を維持できる。】

前述は、現在のこの村が取り組もうとしている方針のひとつだ。私は理解しています。ここ10年ほどの間を切り取って見ても、私の知る限りこの村に移り住み、子育てをしてきた世帯で現在も村に住み続けているのはわずかに数世帯だろうと思います。そのほとんどは村での生活に見切りをつけ、或いは様々な事情がありこの村を離れていったことと思いま

我・想・明・村

～私にも何かできることがあるのかも。と思いはじめた村民より～

す。理由はともあれ、この10年ほど間を見ても南牧村に移り住んだいゆる子育て世帯の在村率は極めて低いのが現実です。今後、年に2世帯程度の子育て世帯を呼び込むことで10年・15年という長いスパンで考えれば人口減少しながらも年代別人口比率を健全な形にすることができるといふ試算。なるほど、と、うなずかせながらも『本当にそんなにうまくいくものなのか?』という疑問を抱かせるものがあります。年に2世帯程度というのは過去10年のケースを見ても分かる通り、実は非常に高いハードルなのですが、同時にできない相談でもないかと私は感じています。これは村長さんをはじめとした役場職員だけが

負うべきことではなく、この村の動ける人たちが皆共通の認識を持って取り組むことでその可能性が開かれてゆくことだろうと感じています。行政組織だけでは足りないところを村人が知恵を出し合い力を寄せ合、皆がそれぞれにできることを集めてこそ実現してゆくことができるのではないかと思っています。当然そのためには、生活を支える収入の仕組みや子育てに関わる様々なサポート体制の構築が必要です。平行して、喫緊の課題のひとつでもある高齢化する住民へのサポート体制と課題は山積みです。『役場の職員は...』と後ろ向きな批判ばかりしていても、この村にとってのプラスにはなりません。今からでも私に何かできることがあるだろうか?

いまこの村は前に進むと動き出しているのです。

＜協議会からお願い＞

現在 村内に移住を検討している来村者の方に紹介できる空家情報が不足しています。空家所有者の方や情報をお持ちの方からのご理解とご協力をお待ちしております。空家の有効利用にご理解とご協力を！

家主(貸主)さんへのアンケートを実施

平成26年10月に空き家を提供して頂いている家主(貸主)さんを対象にアンケート調査を行いました。今回の調査は家主(貸主)さんが安心して空き家を提供して頂けるような体制作りに向けての参考とさせていただきます。回答内容を抜粋にて報告いたします。

【空き家を貸して良かったこと】

- ・家の管理ができた安心した。
- ・住んでもらうことで家屋の劣化防止
- ・家賃収入で税金や保険に当てられる
- ・地区の活性化につながった
- ・村の活性化、財政に役立った

【空き家を貸して悪かったこと】

- ・いまのところ特にない
- ・当然ながら自宅に自由に出入りできなくなった
- ・現状で貸したはずが、無断でどんどん直され一寸哀しい感じがした
- ・長期留守になった場合、庭の雑草処理など近所から苦情を寄せられた
- ・家の内外の片づけができないなど近隣から苦情を受けた
- ・借主がアレギー体質ということでは木がほとんど切られた

【家賃はいくらくらいですか?】任意
・年額3万5千円をはじめとして、月

【協議会に対するご意見・ご要望】

- ・今後も南牧村に貢献できますことがありましたら連絡ください。
- ・家主側が現状の家を修理してから貸し出すにはそれなりの家賃収入が必要。現状で借りてもらい借主が必要に応じて修理して使ってもらうのが良いと思う。
- ・何かあった場合遠方に住んでいるのですぐに対応できない。何か良い方法はないだろうか。
- ・定期的に村の出来事や他の貸主の方の声などを知ることができるとありがたいと思う

・駐車場の世話もしてあげて欲しい
・もつと南牧村をアピールして欲しい
頂いたご意見等、今後の活動の参考とさせていただきます。ご協力ありがとうございます。担当・ハチマキ石井く



時は大正中期・工場内の貴重な一枚



① 製糸場外観

タイムマシン〜なんぞく号

～南牧村にもあった製糸場～

岡製糸場と絹産業遺産群の世界遺産登録を受けたこのチャンスを生かし、南牧村との関わりを勉強するのにもいいのかもしれない。新たな発見や知識を得ることと村の活性化に繋がるかもしれないですね!ちよつと「絹産業」について勉強してみようかな・・・



② 現在の製糸場跡地の様子。ココドコ?

平成26年6月21日に「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産に登録され、富岡市を始め、下仁田町・藤岡市・伊勢崎市に世界遺産が存在することとなり、それぞれ地域は盛り上がりつつあるようです。

絹産業は、かつて南牧村の主要な産業であったことが、村誌や民俗資料館の資料からもわかります。今回の今昔は、村内にあ

26年度10～12月空家問合件数

電話による問合せ	計12件
(10月)	4件
(11月)	8件
(12月)	0件
メール・手紙・FAXによる問合せ	計8件
(10月)	4件
(11月)	3件
(12月)	1件
来庁訪問	計10件
(10月)	3件
(11月)	6件
(12月)	1件
空き家見学会	計7件
(10月)	1件
(11月)	3件
(12月)	3件

「男のロマン」手作り山木屋



“男のロマン”手作り山木屋にて

「男のロマンの隠れ山木屋」
じえいじえいじえい...スゴッ! 男のロマンを実現させた夢の居場所。南牧村の奥地、星尾から山仲に通じる街道は景色も素晴らしい南牧村の一等地。遠い昔、段々畑を耕していたわんぱく時代の思い出の場所。養蚕やこんにやくなどが盛んな頃からの段々畑や桑畑...30年来夢に描いて来た男の隠れ家。いつの間にか荒地と化したこの土地に、隠れ家を建てる

ことが夢になっていた人生。「こつこつと材料集めを続け、定年後に基礎から自分で手仕事し、畑を耕しながら実現させたんさ!」って語る星尾の石井さん。スローライフを地で行く夢の隠れ家に桜美林大学の早野ゼミ生たちがお邪魔してくつろぎの体験。好きな場所で好きな仲間と旨いものを食らう。それが男の夢の醍醐味...スゴッ!ふるさと南牧村は最高の居場所を見せてくれました。都会から近い南牧村は「心のふるさと」自然のオアシスなんです。

くぶらり取材班・スローライフとみ子く